



2012.12.1

12月 ちとせだより

神戸 YMCA ちとせ幼稚園

子どもが他者のことを気にしたり、手助けしようとしたりしていることに対して口出ししている親の言動を見聞きすることがあります。「人のことは気にせずに、そんな暇があったら勉強しなさい」と、我が子が、他者の置かれた状況を心配する気持ちさえ、無意味で無駄なもののようにあつかう親もいるかも知れません。そしてそんな中で育てられた子どもは、自分にとって得にならないこと、不都合なこと、困難なことは避けて通るでしょうし、困難な状況におかれている人々のことは無視し、自分が認められること、褒められること、そして他者より抜きん出ることばかりを求めるでしょう。

東日本大震災から一年半以上が過ぎましたが、未だ様々な苦しみを背負いながら生活している人々がたくさんいることさえ、ともすれば忘れてしまいがちな私たちです。そんな中、今年の夏休みにも幼稚園の教諭数名が、YMCA ボランティアバスで宮城県の被災地へ出向きました。彼らがなし得たことは小さなことだったかも知れませんが、彼らが経験したことを彼ら自身がまた語ることによって、私たちは忘れないという気持ちを新たにすることが出来たでしょう。

すべての創造者である神は、争いや憎しみにあふれた世界を救うために、その独り子をこの世にお遣わしになりました。そしてこの救い主によって示された生き方とメッセージは、2000年たった現代においてもなお、私たちに訴え続けています。憎しみや争いが繰り返されるのではなく、どうすれば愛と喜びを分かち合う世界にすることが出来るか、人々は理解し合うことが出来るか、そしてそのために一人ひとりは何が出来たのか、そのことを私たちは問い続け、求め続けなければなりません。

未来を担う子どもたちが、自分のことだけを考えるのではなく、世界中の仲間と共に歩んで行くことの出来る者として成長することを願い、素晴らしいクリスマスを迎えられますようにお祈りします。

わたしを平和の道具にしてください
憎しみのあるところに愛を 争いのあるところに和解を
分裂には一致を 疑いには信仰を
誤りには真理を 絶望には希望を
悲しみには喜びを 闇には光をもたらすことができますように
わたしがあれこれ求めることをやめ
かえって慰められようとするよりも慰めることを
理解されようとするよりも理解することを
愛されようとするよりも愛することを望ませて下さい
<アッシジの聖フランシスコ 平和を求める祈りより>

年主題 「あふれる愛 小さきものとともに」
12月主題 「喜び合う」

聖句 “その光は、まことの光で、世に来てすべての人を照らすのである。”
(ヨハネによる福音書1章：9節)